

雪の日に

宇都宮とよ

小さき雨とうとう氷り雪となり一心不乱に降りはじめたり
雪の日は北のふるさと思わるる際限なく海へ海へ降りనికి
海底のこんもり雪のおうちにはこまかな魚が眼を開くとぞ
菊香る大根鉈切りの糍漬けしやりしやりと噛み冬を越したり
内蔵うちぐらにずらりと並ぶ大き樽みがきにしんも糍をまとう
なたづけの氷らぬ東京には住めぬ曾祖母北国おおはに一生ひとよを尽くす
おロシアと曾祖母は言い米国と祖父は言いいし炭火の炉端
傘さして傘に小雪を溜めながら郵便ポストまで歩きみる
今しばらく歩ける日々のあるとして春の約束二つ三つよいか
あらたまのとしのはじめのわかみずの東京水道信じて使う